



歌浦っ子・ベゴニア通信



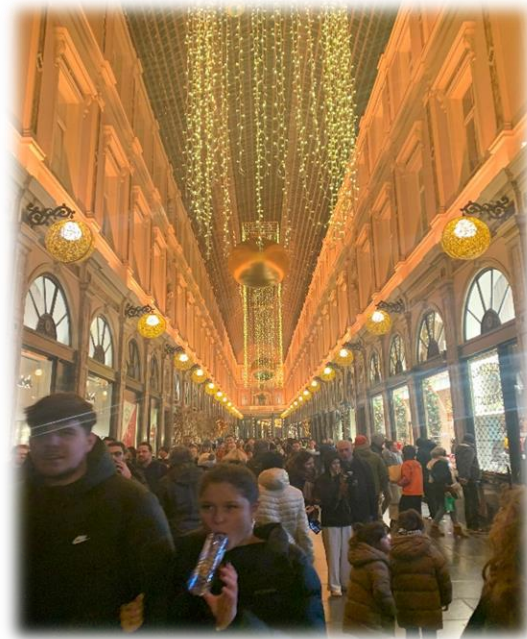
ブリュッセルの街はクリスマス一色です・・・



文責 フラッセル日本人学校補習校
校長 佐藤 博

12月に入って、ブリュッセルの街はクリスマス一色に染まっています。ベルギーのすごいところは、クリスマスのイルミネーションが市内のいろいろなところで行われていること。佐世保であればきれいにクリスマスのイルミネーションされているところは、ハウステンボスか四ヶ町アーケード街くらいだと思いますが、ベルギーでは町ごとにイルミネーションがされており、大きな交差点（ロータリー）の木には、様々な電飾でピカピカ輝いています。国を挙げてクリスマスを楽しんでいるな、というのが伝わってきます。なかでも”世界一美しい広場“といわれている「グランプラス」のクリスマスイルミネーションは大変すばらしく、大きな市庁舎の建物に、上の写真のような「プロジェクション・マッピング」を映して、世界中から集まった観光客の目を楽しませてくれました。（この建物の下の方に見える大きな目が映し出された映像です）。また街中にはサンタクロースのメリーゴーランドが登場し、子どもたちは大喜びで楽しんでいました。

さらにすぐ近くにあるヨーロッパでも屈指の歴史を誇るアーケードといわれている「ギャラリー・サンチュベール」は、キラキラと美しいイルミネーションで、観光客の目を楽しませてくれました。このアーケードの周辺からグランプラスまでが、ここブリュッセルでは観光名所になっているようで、クリスマスのイルミネーションを楽しみながらたくさんの観光客が集まっていました。ちなみにこのギャラリー・サンチュベールにはこれまた大変おいしいワッフルが売っており、ベルギーを訪れる観光客の多くがここでワッフルを食べているため、常に行列ができています。日本のワッフルとは違って、サクッとしたものやしっとりしたものがあっておいしいですよ。



日本では考えられない「安全対策セミナー」！

もしかしたら日本のニュースでも報道されているかもしれませんが、ここベルギーでは銃を使った犯罪がちらほらと出始めていて、やや物騒な感じになっています。2016年には日本人学校から数駅先にある地下鉄を狙った無差別テロが起き、たくさんの人が亡くなるという悲しい事件も起きています。また、つい最近でも、サッカー観戦に来ていたスウェーデン人が銃で撃たれるという事件もありました。

そのような状況の中、自分の身は自分で守ることができるよう、日本大使館で「安全対策セミナー」が行われました。ただその内容は日本では考えられないような過激なものがたくさんありました。例えばナイフを持った相手にどう応戦するのがよいのかというもの。本物のナイフはもちろん使いませんが、自分の体を守るためにどう対応すべきか実技を入れながら教えてもらいました。それ以外にも、「足元に爆弾を投げられた時、どうすべきか」とか「後ろから銃で狙われている時にどのようにして逃げるべきか」といった、日本では考えられないような内容の講習をたくさん受けました。

また講習で使われたビデオも過激な内容のものが多く、学校や会社に銃を持ったテロリストが侵入した時にどうすべきか、といったまるで映画のワンシーンのような内容のビデオが講習の中で使われていました。この研修の根底には「自分の身は自分で守る」といった考え方があるようです。特に日本とは違って、銃なども簡単に手に入る海外では、この考え方は必要でしょうね。

講習後には「ゴルゴ13」のマンガを資料としていただきました。といっても、ただのマンガではありません。海外でトラブルに巻き込まれないようにするにはどうしたらいいか、またテロリストに遭遇した時に、どうやって自分の命を守ることができるか、といったマンガです。私がベルギーに来てもうすぐ2年が過ぎようとしていますが、改めて自分の命は自分で守らなければ、と強く感じた研修でした。

